

共同助成(富山県遊技業協同組合)

「ギャンブル・アルコール・薬物依存回復施設」事業

依存者と向き合い、理解・共感しながら 回復支援のプログラムと場所を提供する

様々な団体や組織による啓発や援助により、依存症に対する偏見や誤解は徐々になくなりつつあるとはいえ、その回復支援に専門的に取り組んでいる施設はまだ少ない。富山県でデイサービスや就労支援を行ってきた団体が、依存からの回復をきめ細かくサポートする施設を立ち上げ、その事業をスタートさせた。



施設の通所者や利用者に軽作業等の独自のプログラムで各種の依存症からの回復を支援

依存症からの回復支援を行うために しっかりとしたサポート体制を整備

富山市に拠点を構えるNPO法人「まいど家」は、保健・医療・福祉・子どもの健全育成を事業目的に、2006年に「富山型デイサービス」を提供する事業所として設立された団体である。富山型デイサービスとは、年齢や障がいの有無にかかわらず、家庭的な雰囲気の中で誰もが一緒に身近な地域でデイサービスが受けられることを特徴としている。活動を続けるうちに障がい者の利用が多くなってきたため、同法人では2014年には事業形態を就労支援B型作業所に変更した。現在は簡単なお菓子作りを行い、近くの野菜直売所、アンテナショップ、お祭りやイベントなどで販売し、その収益を利用者の工賃に充てている。利用者になるべく外部に出ることで、社会の一員として貢献しているという実感が持てるように心がけて運営している。

就労支援事業を行うなかで、施設の通所者や利用者

にはギャンブルや薬物、アルコールなどの依存問題を抱えた人がいて、その沼からなかなか抜け出せず、回復しかけては魔が差したように依存状態に戻る人や、何度か捕まっても依存を断ち切ることができずに苦悩している人を身近で見ることが増えてきた。そのため同法人では、そうした方々をしっかりサポートできる体制を整えたいという思いから、独自のプログラムで各種の依存症からの回復支援などを行う施設「RESTA」を立ち上げることを決意した。その事業のために、POSCと富山県遊技業協同組合からの助成が役立てられることになった。

回復プログラムの提供や共同生活の ための場所づくりに助成を活用

今回の助成は、主に日中のプログラムや食事、作業などを行うための同法人の施設と、そこから約700m離れた共同生活をするための場所のリフォーム工事に充てられた。

また、同施設のホームページ制作費にも使用した(2022年7月公開予定)。

同法人では、「日本アディクションインタベンショニスト協会」の認定資格を取得し、依存症者一人一人に合わせた回復プログラムを提供することで、その人自身の強みを生かした社会復帰や自立を支援することを目指している。「インタベンション」とは直訳すると「介入」という意味であり、「インタベンショニスト」とは依存症専門のカウンセラーのことである。また、刑務所や少年院などから出所した方々の身元を引き受け、二度と同じ過ちを繰り返さないようにするため、社会復帰への基盤を整える出所後支援も行う予定である。「依存者のなかでも、特に薬物・ギャンブル・アルコールにはたくさんの方が悩み、苦しんでいます。その一方で、まだまだ回復支援施設が少ないのが現状です。回復への

道は困難ですが、依存症は回復可能な病気です。多くの方にRESTAのことを知っていただき、少しでも助けになればと思います。そのためにもSNSや各種学校、刑務所などでの講演会などを積極的に実施していこうと思っています。とりあえずスタートラインに立つことができたので、今後、試行錯誤しながら活動を続けていきます」と、同法人の理事長は話す。

富山県遊技業協同組合より

富山県ではギャンブル等の依存に専門的に取り組んでいる施設が少ないため、今後に期待して助成を決めました。



依存症からの回復を目指すため、共同生活をする施設をリフォーム



助成団体: 特定非営利活動法人 まいど家



依存者の方に寄り添い、回復プログラムと場所を提供したい

このたびは助成いただいたことで、本当に助かりました。今回の助成金がなかったら財源もないので、ここまでの取り組みはできなかったと思っています。助成いただいたことで、より一層、依存で苦しむ方々の力になりたいという思いが強くなりました。社会貢献を通じ、少しでも心豊かな社会ができればいいと思います。本当にありがとうございました。

特定非営利活動法人 まいど家
理事長 高畑 博行さん